

令和5年度 地球温暖化対策実行計画<事務事業編>取組結果

項目			温室効果ガス排出量※ (t-CO ₂)				
			H25年度 (基準年度)	R4年度	R5年度	H25比 増減率(%)	前年度比 増減率(%)
事務系	1	電気	26,374.9	20,501.3	20,479.3	-22.4%	-0.1%
	2	都市ガス	5,754.5	5,949.1	5,501.1	-4.4%	-7.5%
	3	LPG	127.5	65.0	67.7	-46.9%	4.1%
	4	重油	343.2	275.7	178.0	-48.1%	-35.4%
	5	灯油	1,577.1	639.9	742.1	-52.9%	16.0%
	6	自動車用燃料 (ガソリン、軽油、CNG)	908.6	761.4	781.0	-14.0%	2.6%
		(ガソリン)	598.5	531.8	527.5	-11.9%	-0.8%
		(軽油)	231.8	216.5	243.1	4.9%	12.3%
		(CNG)	78.2	13.1	10.4	-86.7%	-20.7%
	7	可燃ごみの排出	29.8	15.9	27.9	-6.5%	75.0%
事務系合計			35,115.5	28,208.4	27,777.0	-20.9%	-1.5%
事業系	8	廃プラスチック類の焼却	46,924.1	47,966.1	43,105.2	-8.1%	-10.1%
	9	合成繊維の焼却	7,582.4	7,750.8	6,965.3	-8.1%	-10.1%
	10	廃棄物の焼却	1,946.9	2,004.7	1,586.9	-18.5%	-20.8%
	11	し尿処理	590.5	313.9	270.9	-54.1%	-13.7%
	12	下水処理	223.5	245.7	202.6	-9.3%	-17.5%
事業系合計			57,267.5	58,281.2	52,130.9	-9.0%	-10.6%
合計			92,383.0	86,489.5	79,907.9	-13.5%	-7.6%

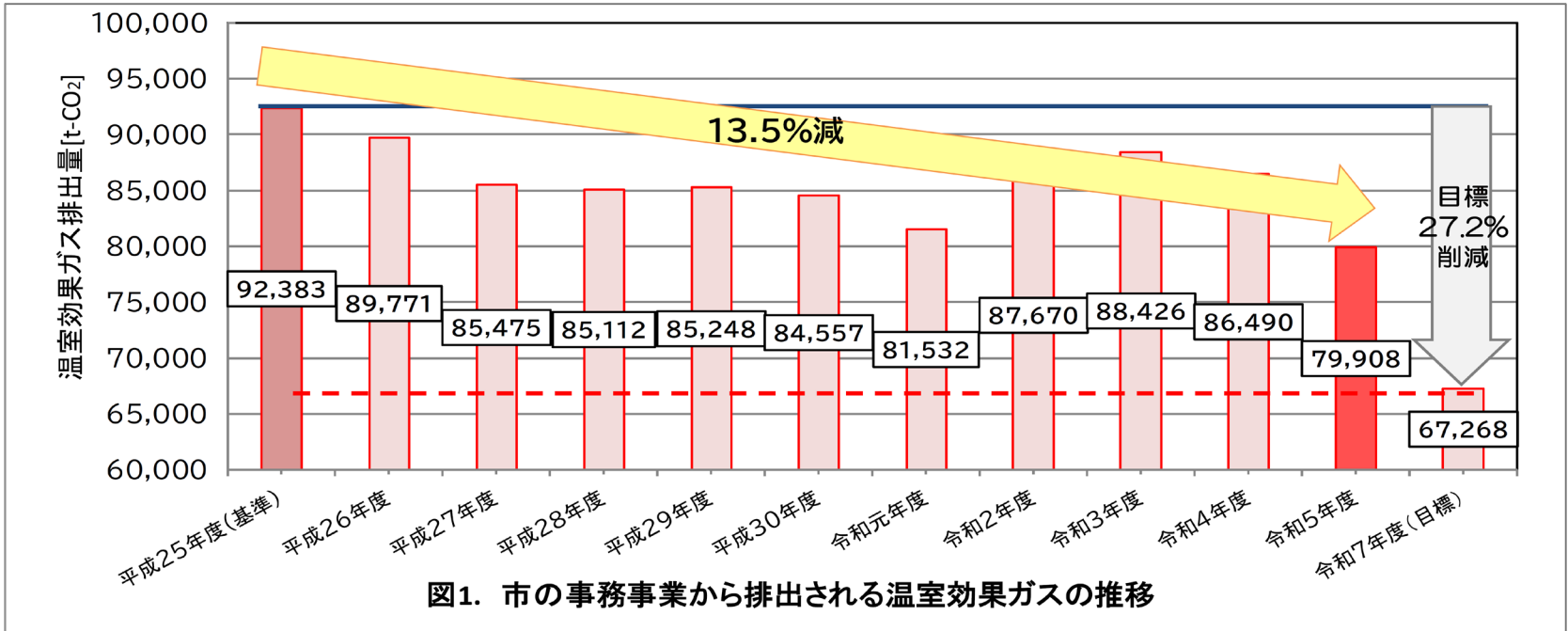
※ 排出係数及び地球温暖化係数は各年度の係数で算定しています。

※ 8廃プラスチックの焼却及び9合成繊維の焼却は、それぞれを焼却することで追加で排出される二酸化炭素排出量です。
10廃棄物の焼却は、焼却ごみより生じる一酸化二窒素を二酸化炭素排出量に換算したものです。

●第三次市川市地球温暖化対策実行計画<事務事業編>の概要

- 計画期間：令和3年度～令和12年度(10年間)
- 基準年度：平成25年度
- 対象範囲：全ての事務事業
- 目 標：令和12年度までに平成25年度比で50%以上の二酸化炭素排出量削減

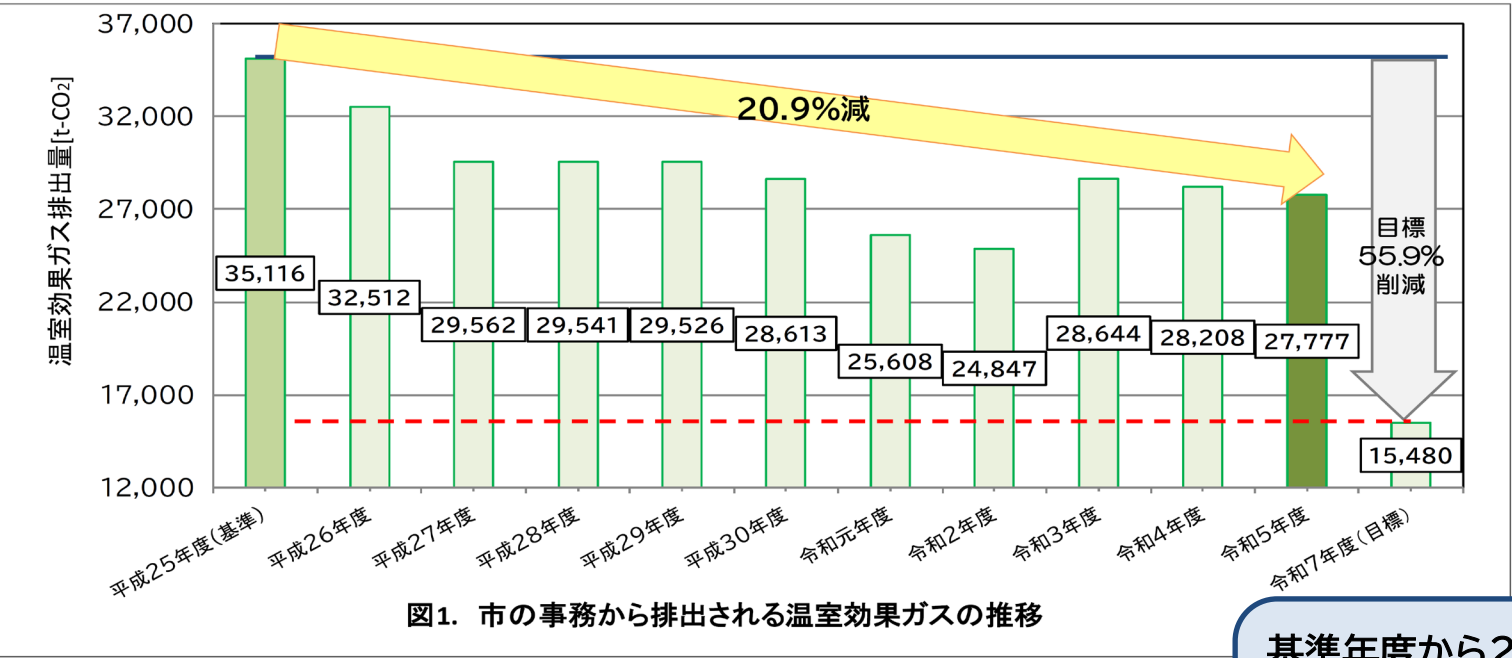
●温室効果ガス排出状況の推移



事務系及び事業系ともに排出量については、前年度と比較して減少となった。この要因はLEDの導入や使用頻度を抑える取組等による効果が考えられる。
結果、全体では前年度比7.6%の減少、基準年度比13.5%の減少となった。

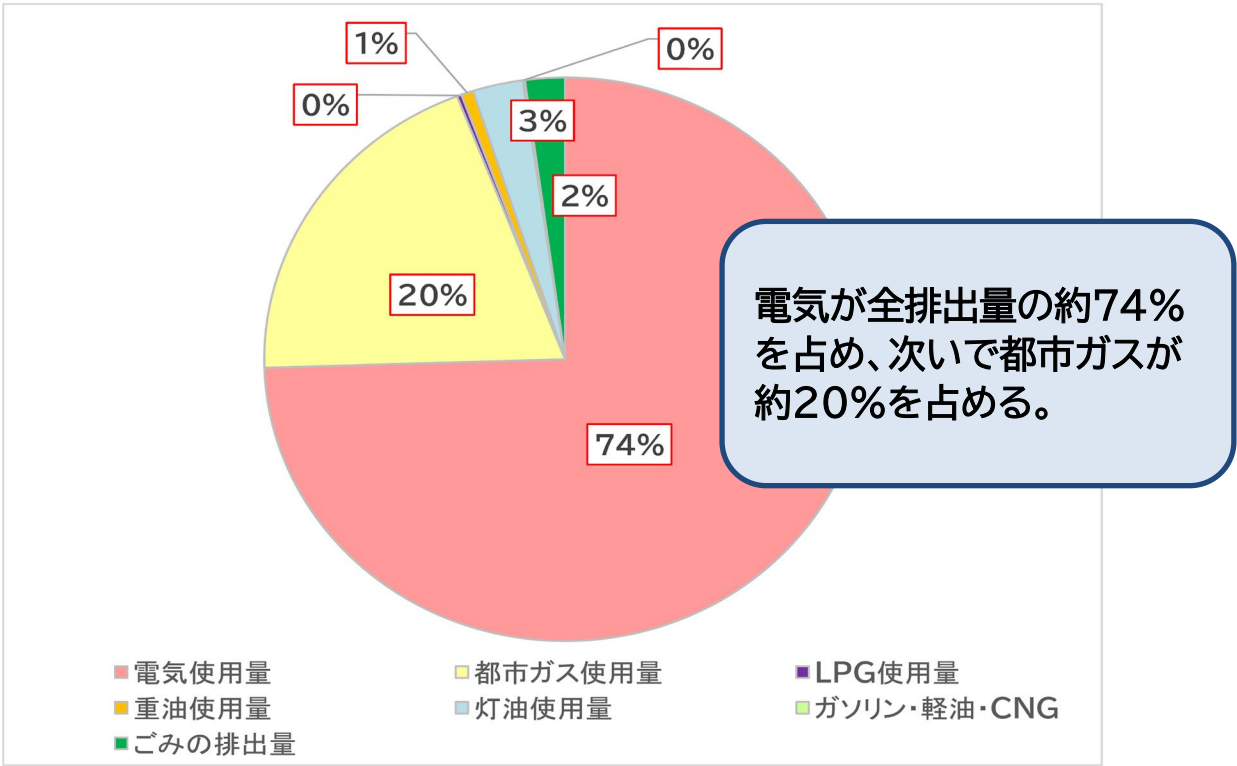
令和5年度 事務編の排出量について

1.事務編全体の排出量の推移



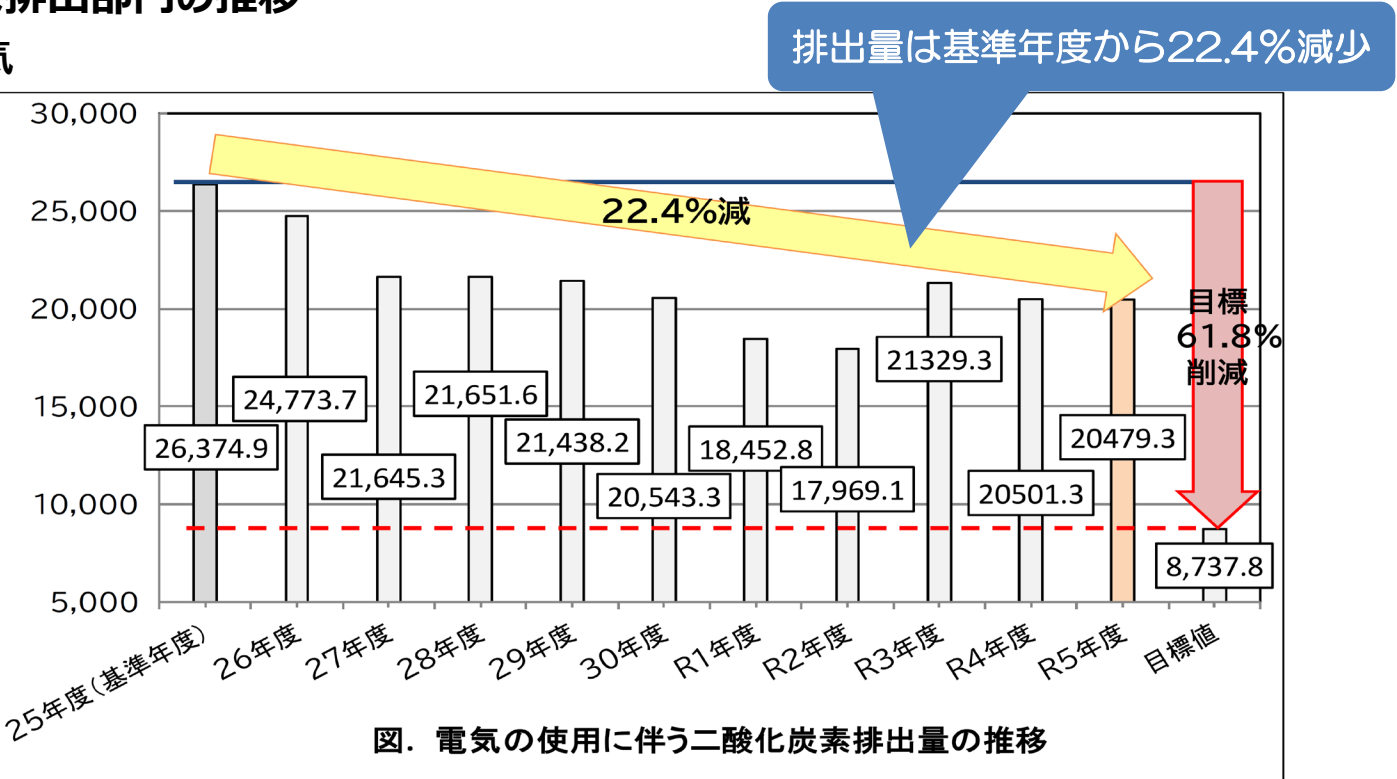
基準年度から20.9%減
令和5年度は節電等により、前年度から排出量が減少した。

図:排出量における各要因の割合



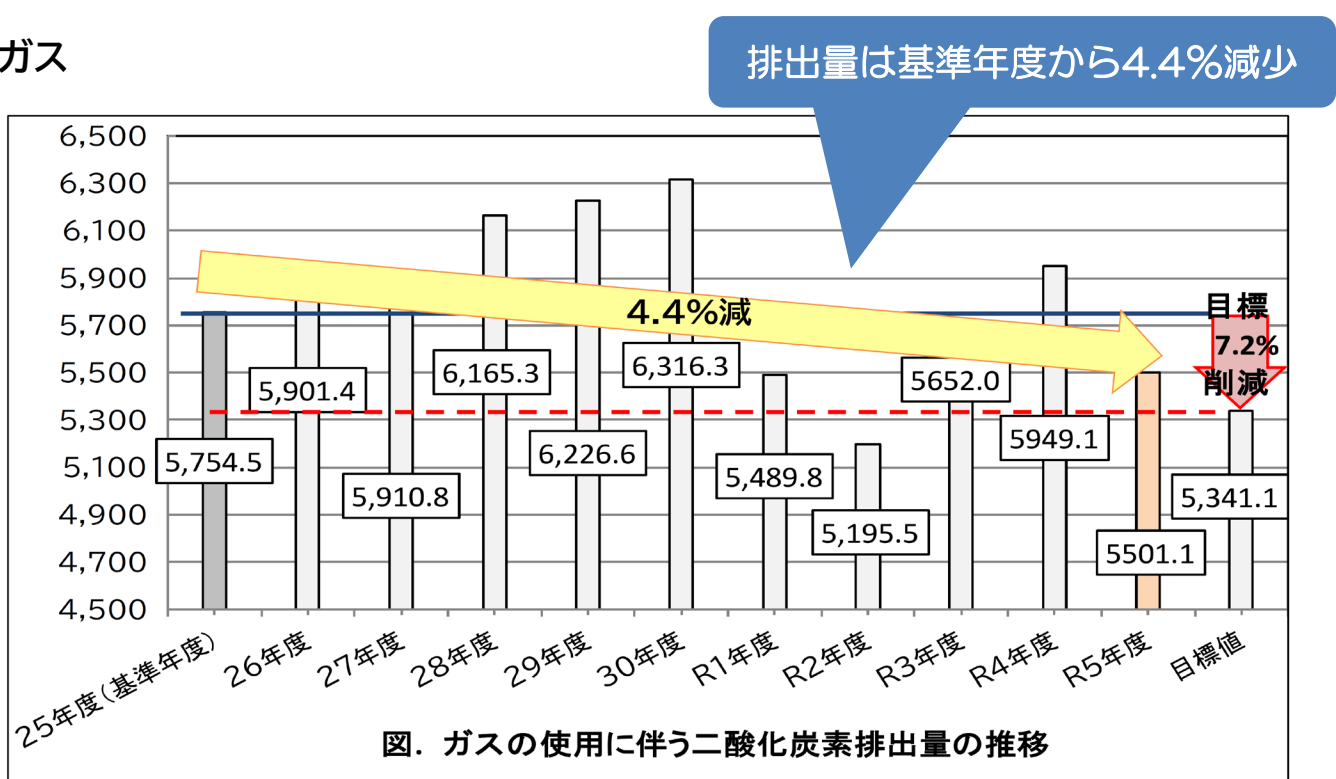
2.主な排出部門の推移

① 電気



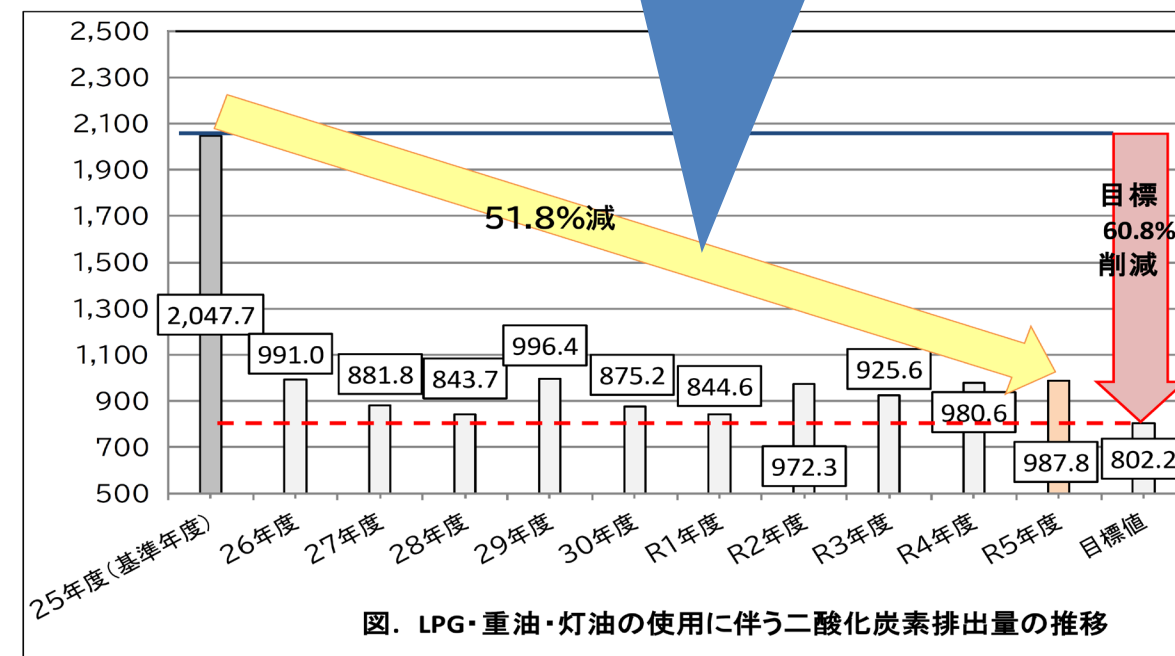
- 施設の民営化や、二酸化炭素排出係数の低下により減少傾向にある。
- 令和5年度は以下の原因により、前年と比べて使用量が減少した。
 - ① LEDの導入
 - ② こまめな消灯の心がけ等の節電対策の実施

② 都市ガス



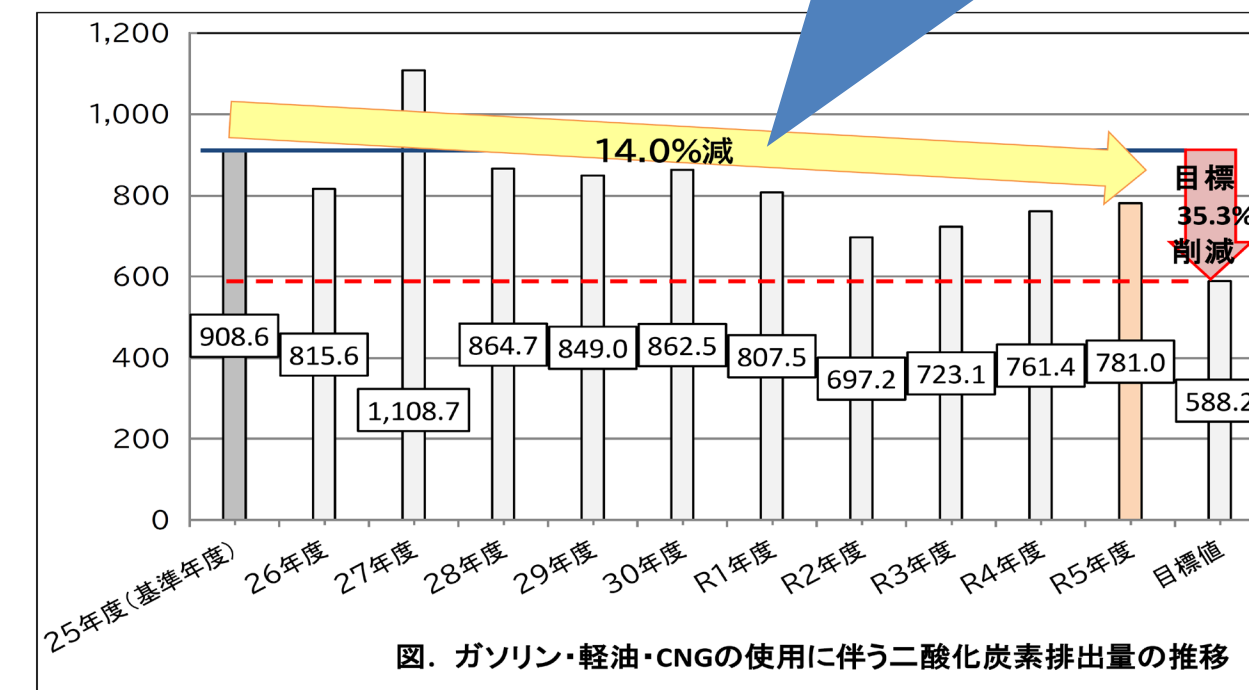
- 令和5年度は節約の実施や調理施設等の稼働時間が減ったことなどが影響し、前年度と比べて排出量が減少した。

③ LPG・重油・灯油



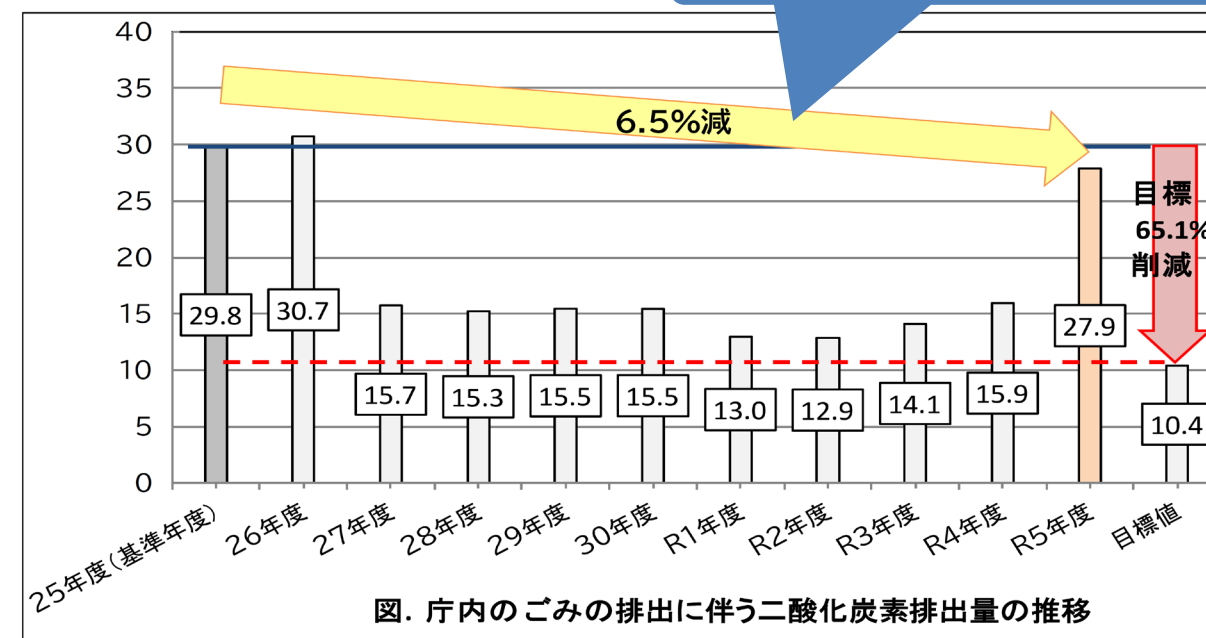
- 施設の民営化や、空調設備等の入れ替えに伴い減少傾向にある。

④ 自動車



- ガソリン及びCNGの使用に伴う排出量は、自動車の燃費向上や使用頻度の低下によって減少傾向にある。
- 軽油の使用に伴う排出量は、使用頻度の上昇によって、増加傾向にある。

⑤ 庁内ごみ



- 令和5年度は、以下の原因により、前年度と比較して増加する要因となった。
 - ①執務室のレイアウト変更に伴い、不要な書類等の処分
 - ②新型コロナウイルス収束に伴う施設の利用制限の緩和

3.まとめ

- 令和5年度は、前年度と比較して自動車の利用及び庁内ごみの処分に伴う排出量が増加傾向となった。
- 電気及び都市ガスの消費量については、節約等の実施により、前年度と比較して排出量の減少となった。
- なお、今年度(令和6年度)の排出量については、新型コロナウイルス収束に伴うイベントの開催等を考慮すると、前年度と比較して横ばいとなることが予想されるが、節電対策の強化により全体としては減少となることも考えられる。

令和5年度 事業編の排出量について

1.事業編全体の排出量の推移

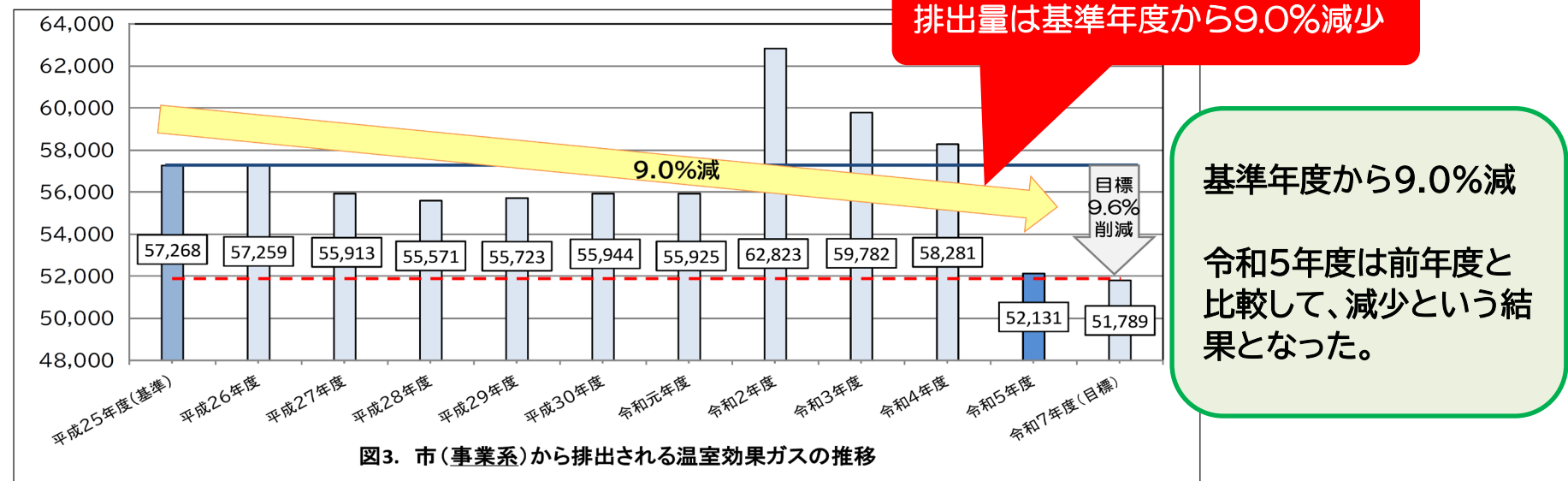
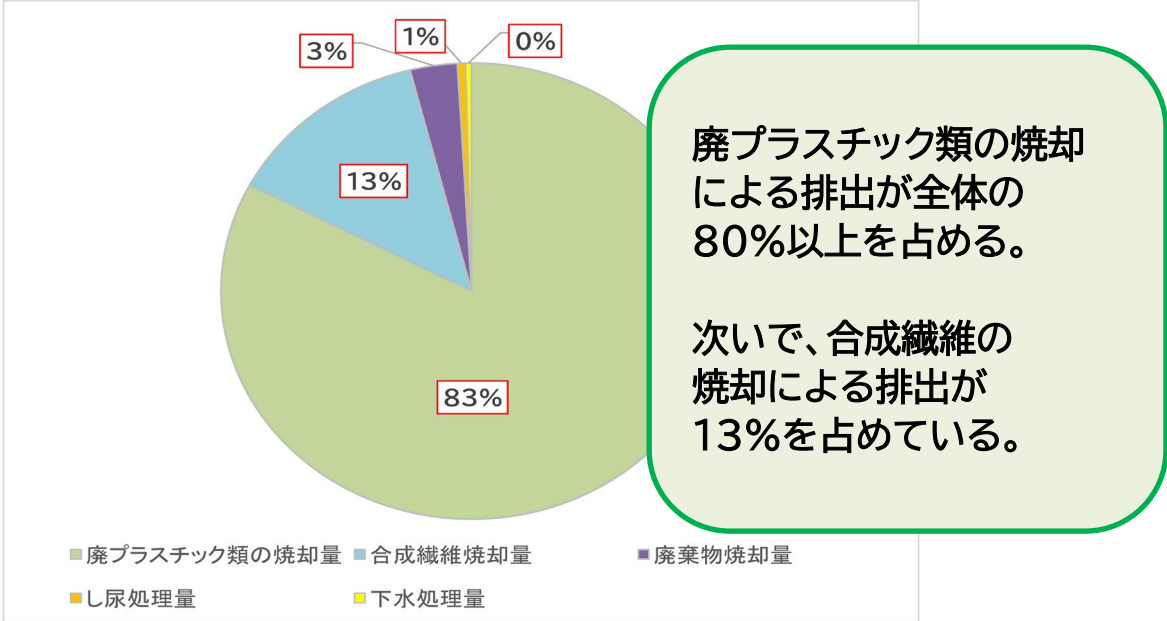
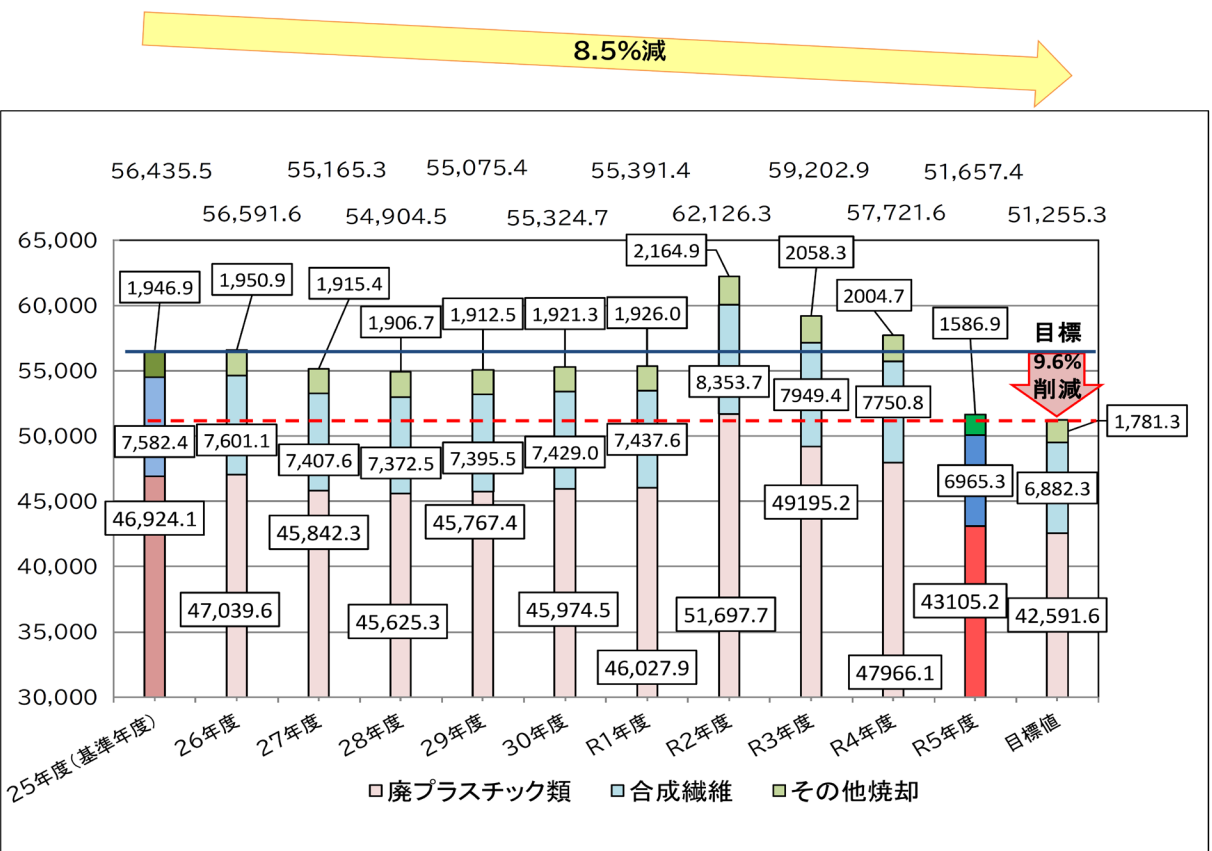


図:排出量における各要因の割合

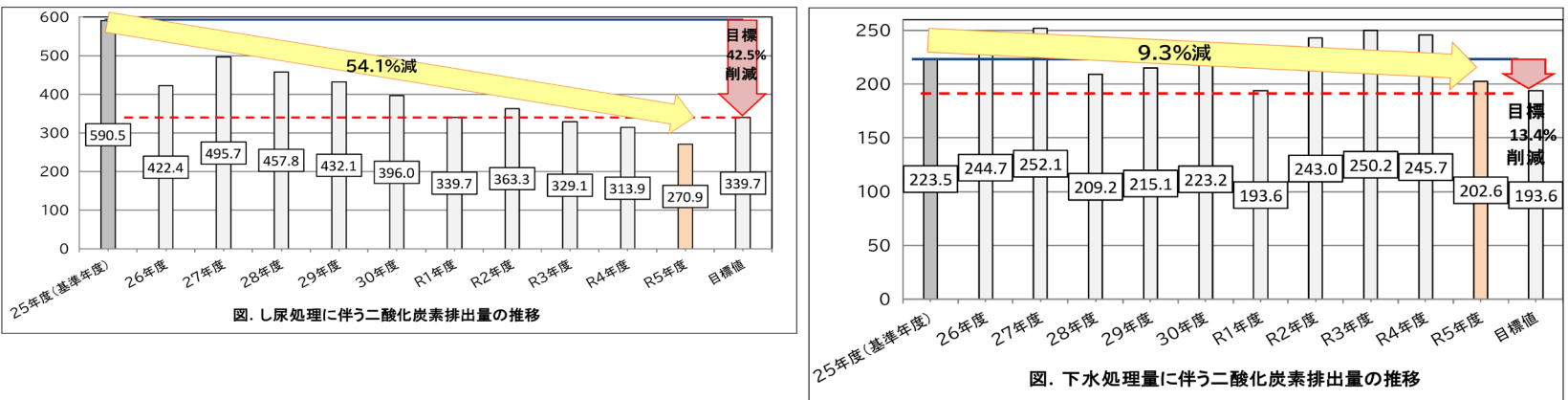


2.主な排出部門の推移

① 廃棄物・廃プラスチック・合成繊維の焼却



② し尿処理・下水処理



3.まとめ

- 令和5年度は、焼却に伴う排出量が前年度と比較して減少となった。
- 今年度(令和6年度)の排出量については、特段の増減要因がないことから、令和5年度と同様の傾向と予想される。